



教科書の歴史



ま な び や

明治十九年の小学校令を機に検定制度が導入され、文部省の検定を通過した教科書だけが出版されました。

検定制度下

開化の風潮を反映しました。



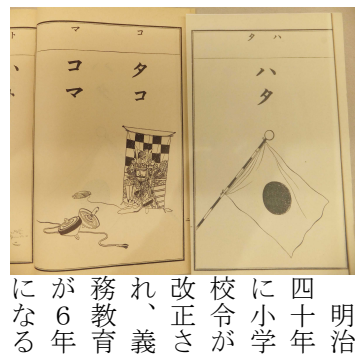
自由採択時代

明治五

一八七二（明治五）年、政府は学制を公布し、近代的な教育制度の基本方針を明らかにしました。以降、教科書は時代とともに内容を変えながら出版され、子どもたちに多くの知識を提供し、教育の発展を支えてきました。【展示室C】では、明治初年から現代までの教科書の歴史をご紹介します。

T7～ 愛称ハナト読本 国定教科書 第三期

と、教科書の内容も大きく変わりました。



M43～ 愛称ハタタコ読本 国定教科書 第二期

版することとなりました。



M37～ 愛称イエスシ読本 国定教科書 第一期

S16～ 愛称アサヒ読本 国定教科書 第五期

昭和十六年の国民学校令で全国の小学校は国民学校にな

て、児童の心理と生活を重んじる考え方を反映した面が見られます。



S7～ 愛称サクラ読本 国定教科書 第四期

大正自由教育が活発に行われました。



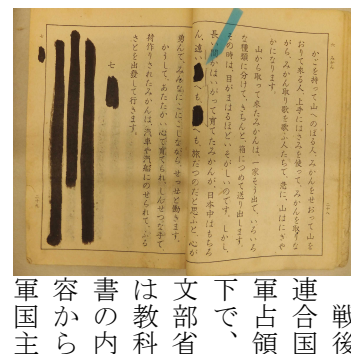
昭和十六年の国民学校令で全国の小学校は国民学校にな

て、児童の心理と生活を重んじる考え方を反映した面が見られます。



現代の教科書

新しい学校制度が発足し、文部省は学習指導要領に基づいて、民主主義を基本とした教科書を発行しました。



終戦直後の教科書

戦後連合国軍占領下で、文部省は教科書の内容から軍国主義や国家神道の箇所を削除させる指示を出しました。

